

## チプロのメッセージ

(1992.5.3 モントリオール会議：インド代表 ”チプロ運動の父” スンダルラル・バフグナ氏)

私たちはチプロと呼ばれている

チプロとはインド語で”抱きつく”という意味

私たちは木が切られないように木に抱きつく

木と共に切られてすでに200人の仲間が死んだ

今、あなたがたの国からたくさんの人が来て、たくさんの木を切り、たくさんのダムを作ろうとしている

ダムが出来ると森が沈み、私たちは生きていけない

このようなことが行われなかったために、私たち10万人のチプロは水に沈む覚悟をした  
よく聞いて欲しい

私たちは決して貧しくない、私たちは豊だ

私たちは何も欲しくない、ダムも電気もお金も

あなた方は経済という宗教に取り憑かれてしまった

神様はお金、儀式は開発、生け贄は地球

神様からの贈り物は飢えと公害と戦争

開発は自然を殺し、一時の富をもたらすが永遠の生活と幸せを失う

私たちは開発ではなく、幸せを求めている

小さな土地と少しの水、少しの食べ物で十分なのだ

幸せはお城の中でなく、自然の中にある

悩みは欲の中にあり、幸せとは欲から解放されること

あなた方はどうして、その当たり前のことを忘れてしまったのか？

あなた方はどこに行くのか？

**Yes to life! No to death!**

※インドのナルマダ渓谷に、現在3000のダムを作り100の村、10万人の先住民族を水に沈める開発が進められている。

これには日本のODA（途上国支援）が大きく関与していて、国際的な批判で世界銀行は融資を中止したが、工事は今なお続いている。